

緑化活動啓発作品 コンクール入賞者



北海道内の小中学生、高校生を対象に募集した森林や緑に関する
作品コンクールの入賞者と作品の一部を紹介します。たくさんの応募、ありがとうございました。

賞状の額は、北海道の木で作成したもので、北海道森林組合連合会の提供によるものです。(樹種／マカバ、ミズナラ 製作／下川フォレストファミリー(株))

ポスター部門

応募総数
212作品



【 小学校の部 最優秀賞
北海道知事賞 】

「木を大切に」
知内町立知内小学校5年
津田 佳明さん



【 中学校の部 最優秀賞
北海道教育長賞 】

「初めての植樹」
浜中町立茶内中学校1年
木口 莉沙さん



【 小学校の部 優秀賞
北海道森林組合連合会長賞 】

「つたのからまる自然の家」
むかわ町立宮戸小学校5年
磯部 田さん

【 小学校の部 優秀賞 】 知内町立知内小学校5年 金澤智香さん / 北海道教育大学付属札幌小学校3年 吉田有里さん

【 中学校の部 優秀賞 】 富良野市立富良野西中学校1年 伊藤なづなさん / 北見市立光西中学校3年 上見天音さん
深川市立深川中学校2年 田村咲弥さん

【 高等学校の部 優秀賞 】 市立札幌開成中等教育学校2年 永井萌楓さん / 北海道函館水産高等学校2年 佐々木加奈さん

標語部門

応募総数 313作品

小さな芽 みんなで育てて 大きな森へ

【 標語の部 最優秀賞
北海道知事賞 】 士別市立朝日中学校2年
西田 文香さん

【 標語の部 優秀賞 】 江別市立対雁小学校3年 土肥詩音さん / 白糠町立茶路小学校4年 工藤光稀さん

令和元年度 北海道森と緑の会 活動報告 / 緑の募金ニュース

森と緑の会では、緑の募金や企業などからの寄付金などを活用して、道内各地で森づくり、緑化活動、木育ひろば、森林ボランティアの活動支援などを行っています。令和元年度の活動の一部を報告します。関係者の皆さまのご協力に感謝いたします。

全道各地

4月15日(月)~6月30日(日)

緑の街頭募金

【参加者】約2,500名



緑の少年団、学生、ボイスカウト、ガールスカウト、ボランティア団体など多くの人たちの協力により、全道各地で街頭募金を行いました。

札幌市／道庁赤れんが前広場

5月11日(土)

木育フェスタ開会式

【参加者】約300名



青空の下、木育フェスタ開会式と街頭募金の出発式を行い、続いて札幌駅前などで街頭募金活動を実施しました。

当別町／道民の森 ほか全道各地

6月3日(月)ほか

お魚殖やす植樹運動

【寄附企業】北海道鮭商生活衛生同業組合、(株)エスシー・アベックスほか



漁協女性部などが主催し、道民の森ほか全道各地で「お魚殖やす植樹運動」に取り組みました。当会では使途限定募金を行って、取組を支援しています。

当別町／道民の森

7月28日(日)、29日(月)

緑の少年団交流大会in北海道

【参加者】約2,500名



北は稚内市から南は沖縄県まで全国9つの緑の少年団が参加し、育樹体験、ツリーイング、ジンギスカンなどで交流しました。

札幌市／札幌ドーム

8月12日(月)、13日(火)

環境広場さっぽろ2019

【参加者】約26,000名



木育マイスターや北星学園大学の学生さんの協力により、木育広場を出展し、葉っぱのクイズ、木玉のプールなどを楽しんでいただきました。

札幌市／白旗山都市環境林

9月12日(木)

北海道セキスイハイムG森林保全活動

【参加者】40名



企業のCSR活動の一環として、北海道セキスイハイムグループの新入社員のみなさんによる植樹と下刈りなどの活動を行いました。

苫小牧市／苫東和みの森

10月19日(土)

北海道植樹祭・育樹祭

【参加者】約700名



北海道育樹の日(10月第3土曜日)に植樹祭・育樹祭を開催し、式典、アトラクション、植樹、育樹、テント村などを盛大に行いました。

釧路市／観光国際交流センター

11月9日(土)、10日(日)

くしろ木づなフェスティバル

【参加者】約4,200名 【出展者】35企業・団体



森林資源の有効利用をPRする総合イベントが5年ぶりに開催され、多彩なステージショー、展示ブース、ワークショップなどが繰り広げられました。

札幌市／ふきのとう文庫

11月10日(日)~13日(水)

木育ひろばinふきのとう文庫

【参加者】約250名 【寄附企業】(株)山本ビル



こども図書館「ふきのとう文庫」で木育広場を開催し、絵本の読み聞かせ、マイ箸づくりなどを行いました。

山を育てる 仲間たち



010

富丘林業グループ

Tomioka Ringyou Group

酪農業が盛んな興部町富丘地区で半世紀の長きにわたり活動し、結成時20歳前後だった会員たちは現在ベテランとして活躍。2名が北海道指導林家の認定を受け、平成3年度には全国林業研究グループコンクール農林大臣賞を受賞。



きっかけは「酪農だけでなく林業も」の助言。 技術を学んだ地域の森は、地域貢献の場に。

出材で収益を上げ、結成当初の目標を達成

富丘林業グループのルーツは、昭和30年代に地域の若き酪農後継者らが結成した青年団にあります。先輩から「酪農経営だけでなく林業収入も視野に入れることが重要」との助言を受け、個人の所有林や地域の共有林でトドマツの植栽を開始。活動に必要な林業経営の専門知識を得るために年24回の林業教室を受講した有志のうち9名が、学んだ知識や技術を実践するため昭和46年に同グループを立ち上げました。

活動拠点は分収造林として借り受けた地域の共有林。「青年の山」と名付け、技術習得に活用しています。当初は林業経営実践の場でしたが、地域住民が活動に関心を持ってくれたことから地域



貢献活動の比重が増し、現在の活動も子どもの遊び場整備、体験学習やイベントの実施など、地域との結びつきを大事にした取組が主体です。

結成目的であった林業経営でも着実な成果を上げています。平成21年には「青年の山」のトドマツ40年生の皆伐で約200万円の収益を得て、結成時に目標として掲げた海外旅行を実現。木工品の視察にグループで台湾を訪問しました。

活動を継続しながら世代交代も視野に

停滞することなく活動を続けられた理由としてグループが挙げたのは、「息の合った仲間たち、林業普及指導員のわかりやすい技術指導など周囲のサポート、そして家族の理解」

の3点。結成時の9名から2名が他界し7名となった会員は、令和に入って1名が親子継承し、最年少会員は65歳から40歳に若返りました。後継者の育成が大きな課題となる中でのうれしい世代交代で、新たな会員の募集にも力が入ります。

林野火災バトロールから木育イベントまで、さまざまな活動を通して富丘地区そして興部町になくてはならない存在となっている富丘林業グループ。「山つくり、人つくり、地域つくり」の3本柱で半世紀をともに歩んできた仲間たちは、「これからもがんばるぞ!」とますます意気盛んです。

